

選択的評価事項に係る評価

自己評価書

令和元年 6 月

釧路工業高等専門学校

- ・ 自己点検・評価結果欄の各項目のチェック欄で「・・・していない」等にチェック（■）した場合は、自己点検・評価の根拠資料・説明等欄に、その理由等を記述すること。
- ・ （該当する選択肢にチェック■する。）と記載のある項目は、該当する箇所のみチェックを入れること。選択肢全てにチェックを入れる必要はない。
- ・ 自己点検・評価の根拠資料・説明等欄の記号は次のとおり。
 - ◇：明示している根拠資料については、該当資料名、資料番号、自己評価書「根拠資料編」での掲載ページを記入すること。資料は、該当箇所がわかるように（ページや行の明示、下線や囲み線を引くなど）して、まとめて自己評価書「根拠資料編」として作成すること。資料を、ウェブサイト等で公表している場合には、ウェブサイト公表資料と付した上で、該当資料名、資料番号を記入し、そのリンク先を欄中に貼付すること。この場合は、自己評価書「根拠資料編」にリンクを貼ったウェブサイト公表資料の一覧を添付すること。
 - ◆：資料等を基に自己点検・評価の項目に係る状況を記述すること。（取組や活動の内容等の客観的事実について具体的に記述し、その状況についての分析結果をその結果を導いた理由とともに記述。）記述は、できるだけ簡潔にし、分量は、200字以下を目安とすること。なお、「・・・場合は、」とあるものについては、該当する場合のみ記述すること。また、根拠資料の資料名、資料番号、自己評価書「根拠資料編」での掲載ページを記入すること。
- ・ 関係法令の略は次のとおり。

（法）学校教育法、（設）高等専門学校設置基準

I 高等専門学校の現況及び特徴

(1) 現況	
1. 高等専門学校名	釧路工業高等専門学校
2. 所在地	北海道釧路市大楽毛西2丁目3番1号
3. 学科等の構成	準学士課程：創造工学科 専攻科課程：建設・生産システム工学専攻 電子情報システム工学専攻
4. 認証評価以外の第三者評価等の状況	特例適用専攻科（専攻名：建設・生産システム工学専攻 電子情報システム工学専攻） J A B E E 認定プログラム（専攻名：生産情報システム工学） その他（ ）
5. 学生数及び教員数 （評価実施年度の5月1日現在）	学生数：780人 教員数：専任教員76人 助手数：0人
(2) 特徴	
<p>釧路工業高等専門学校（以下、本校）は、地域産業界の強い要望により実践的技術者を養成するための高等教育機関として、昭和40年度に機械工学科、電気工学科、建築学科の3学科をもって設置された。その後、昭和45年度に電子工学科、昭和61年度には情報工学科が増設された。平成16年度には、既設5学科の上に専攻科を設置し、より高度な専門知識と技術を教授し、創造的な研究開発や先端技術に対応できる人材を育成するために複合・融合的な工学専門領域の教育を目指して、建設・生産システム工学専攻及び電子情報システム工学専攻の2専攻からなる専攻科が設置された。</p> <p>平成28年度に、情報工学、機械工学、電気工学、電子工学、建築学の各専門分野を融合し、地域社会や産業界で必要とされる横断的な専門知識や問題解決能力を身につけた地域創成を担う人材を育成するため、これまでの5学科を改組し、創造工学科を設置した。</p> <p>この間、平成7年には地域連携を促進するために、産学官共同研究・連携推進協議会を設置し、平成12年度に本校の地域産業界への貢献、それを通じた実践的技術者教育の一層の充実を図るために、地域共同テクノセンターを創設した。さらに平成17年6月には、この協議会を発展的に解消し、本校を支援し活用することを目的として、地域企業や団体、個人会員から構成される外部組織の釧路工業高等専門学校地域振興協力を設立していただいた。平成17年度以降、地域振興協力会主催による本校専攻科生の研究発表会が毎年開催され、本校の研究シーズを地域産業界に発信し続けている。</p> <p>本校は、北海道東部の十勝、釧路及び根室3振興局管内における唯一の工学系高等教育機関として、開校以来6、500名を超える卒業生を社会に送りだすとともに、地域との連携を行ってきた。卒業生は企業技術者、教育研究機関の教育・研究者として活躍している。また、本校には電気系3学科、建築学科があるなど、ユニークな学科構成となっている。</p> <p>本校の理念は、創造性のある実践的技術者の育成と地域貢献・地域連携である。創立以来50年の伝統をもつ校訓は信頼・努力・明朗であり、教育目標は(1)人格をそなえ、自己を律する人物を育てる、(2)広い視野を持ち、創造力豊かな技術者を育てる、(3)チャレンジ精神に富んだ人物を育てる、としている。本校では、この理念と目標に基づき、自己の基盤となる専門分野の基礎知識を備え、多様な技術的課題に対するエンジニアリングデザイン能力、コミュニケーション能力をもつ技術者の育成を目指して、教育・研究、地域連携を行なっている。また、学業の他に、技術者を目指す者の人間教育の一貫として、課外活動を重視し成果を上げており、平成23年度には「第4回高専における設計教育高度化のための産学連携ワークショップ」における3次元デジタル設計造形コンテスト優勝などの実績がある。</p> <p>本校の教育プログラムが国際的な学士教育課程のレベルにあることを立証し、学生及び社会の期待に応えるため、平成18年度に「生産情報システム工学」教育プログラムとして工学（融合複合・新領域）関連分野でJABEE認定を取得し、さらに平成29年度には継続認定を取得した。</p> <p>平成27年度に学位授与機関である大学改革支援・学位授与機構から、大学教育に相当する水準の教育を行っているとし、学位規則第6条第1項に規定する学士の学位授与に係る特例適用専攻科の認定を取得した。</p>	

II 目的

1. 釧路工業高等専門学校の使命及び目的

本校は、北海道東部に位置する工学系高等教育機関として、「教育基本法及び学校教育法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。」(学則第1条)ことを目的として設立され、地域産業の発展に貢献できる技術者、国内外で活躍できる技術者の育成、また、産業界への技術支援、技術者のキャリアアップ教育、地域住民の生涯教育や社会活動への支援を任務としている。これらの実現のために「創造力、問題発見・解決能力をもち実践力となる技術者を育成し、また地域の社会的・技術的要請に応え、地域と連携し、地域に貢献する」ことを理念とする。

本専攻科は、5年間の高等専門学校における教育の基礎の上に、より深く高度な専門知識及び技術を教授し、これまでに培われてきた実践的技術者としての素養に加え、より高度な技術開発能力と研究能力を身につけた創造型技術者の育成を目的としている。

2. 養成すべき人材像

本校には、上記の理念の下、本校設立以来の校訓として「信頼・努力・明朗」があり、教育目標は(1)人格をそなえ、自己を律する人物を育てる、(2)広い視野を持ち、創造力豊かな技術者を育てる、(3)チャレンジ精神に富んだ人物を育てる、である。これらの教育目標の下で養成すべき人材像として、準学士課程の学生については「実践的・創造的技術者」を目指し、専攻科課程の学生については「高い課題設定・解決能力を備えた実践的・創造的技術者」を目指すこととしている。

3. 釧路工業高等専門学校の学習目標

【準学士課程】(実践的・創造的技術者)

A:(技術者として社会に貢献するために) 人類の歴史的な背景、文化や価値観の多様性を理解し、地球的規模で社会問題や環境問題を考える基礎能力、および技術が社会や環境に与える影響を認識し、技術者が社会に対して負っている責任を理解する基礎能力を身につける。

B:(地域・社会に貢献するために) 地域の産業や社会の抱える課題に対処できる基礎能力を身につける。

C:(技術的課題を解決できるように) 工学の幅広い基礎知識(数学、自然科学、情報技術、基礎工学)を修得し、それらを応用する能力を身につける。

D:技術者として自己の基盤となる専門分野の知識を修得し、それを応用する能力を身につける。

E:技術的課題を分析・総合し、解決するための計画をたて、その計画を実行して課題を解決する基礎能力を身につける。さらに、チームワークで仕事をする基礎能力を身につける。

F:文章、口頭、図表や視覚的な方法によって、効果的にコミュニケーションができる基礎能力を身につける。すなわち、日本語で論理的に記述し討論する能力、および簡単な論理的文章を英語で記述し、基本的な英会話によるコミュニケーションを行うための基礎知識を身につける。

G:(技術の進展や社会の変化に対応できるように) 継続して専門知識や関連する分野の知識を学習する習慣を身につける。

【専攻科課程】(高い課題設定・解決能力を備えた実践的・創造的技術者)

A:(技術者として社会に貢献するために) 人類の歴史的な背景、文化や価値観の多様性を理解し、地球的規模で社会問題や環境問題を考える応用能力、および技術が社会や環境に与える影響を認識し、技術者が社会に対して負っている責任を理解する応用能力及び技術者としての倫理観を身につける。

B:(地域・社会に貢献するために) 地域の産業や社会の抱える課題に対処できる応用能力を身につける。

C:(多様な技術的課題を解決できるように) 工学の幅広い基礎知識(数学、自然科学、情報技術、設計・システム系、情報・理論系、材料・バイオ系、力学系、社会技術系の基礎工学)を修得し、それらを応用する能力を身につける。

D:技術者として自己の基盤となる専門分野の知識(専門応用系、工学実験系、問題解決系、実務対応系)を修得し、それを応用する能力を身につける。

E：多様な技術的課題を分析・総合し、解決するための計画をたて、その計画を実行して課題を解決するデザイン能力を身につける。さらに、チームワークで仕事をする能力を身につける。

F：文章、口頭、図表や視覚的な方法によって、効果的にコミュニケーションができる応用能力を身につける。すなわち、日本語で論理的に記述し討論する能力、および簡単な論理的文章を英語で記述し、英会話によるコミュニケーションを行うための基礎知識（英検準2級以上またはそれに相当する能力）を身につける。

G：(技術の進展や社会の変化に対応できるように) 日本語だけではなく英語も使用して、継続して専門知識や関連する分野の知識を学習する習慣を身につける。これらを明確に示す。

4. 釧路高専三つの方針

釧路高専では三つの方針（ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシー）を定めている。

(1) 【準学士課程】(本科)

○ ディプロマポリシー

本校では、学則に定める所定の単位を修得し、学習目標に定める実践的・創造的技術者としての能力及び各コース・各分野に下記の能力を身につけ、5年間の課程を修了した者に対し卒業を認定する。

① スマートメカニクスコース

情報工学分野と機械工学分野を融合し、様々な機能を実現するために製品に組み込まれるコンピュータシステム技術、高度情報化社会を支えるプログラミング技術、人間と機械間の情報のやり取りや情報の流れを制御するためのシステム技術、人間と機械・システム間の橋渡しをするマンマシンインターフェース技術、機械とセンサーやコンピュータ技術を結合させて機械の高度化を図るメカトロニクス技術等を活用することができる、高度な能力を修得した者。

・情報工学分野

情報工学分野は、スマートメカニクスコースの中で、特に大量の情報を効率よく「取得」「加工」「蓄積」「伝達」するなどの情報工学を中心とした技術等を活用することができる高度な能力を修得した者。

・機械工学分野

機械工学分野は、スマートメカニクスコースの中で、特に「エネルギー」「情報」「機械材料」をつくり出す“ものづくり”などの機械工学を中心とした技術等を活用することができる高度な能力を修得した者。

② エレクトロニクスコース

電気工学分野と電子工学分野を融合し、電気エネルギーや計測制御と光・電子デバイス、電子制御と情報通信技術を学び、人々の安心・安全で豊かな生活を支えるために、社会基盤技術から情報通信技術までの、幅広い全ての産業に貢献できる高度な技術等を活用することができる高度な能力を修得した者。

・電気工学分野

電気工学分野は、エレクトロニクスコースの中で、特に人々の暮らしを支える電気エネルギーの「生成」「伝送」「利用」などの電気工学を中心とした技術等を活用することができる高度な能力を修得した者。

・電子工学分野

電子工学分野は、エレクトロニクスコースの中で、特に「電子デバイス」「情報通信」「電子制御」などの電子工学を中心とした技術等を活用することができる高度な能力を修得した者。

③ 建築デザインコース

・建築学分野

建築学分野に関する知識、技術を総合的に学習し、建築構造・材料、建築生産、建築環境・設備、建築計画・設計など建築学の基礎から応用までの幅広い知識・能力を習得した者。

○ カリキュラムポリシー

本校では、「ディプロマポリシー」に定める能力を身につけるため、創造工学科及び各コース・分野ごとに下

記のとおり定めている。

(創造工学科)

- 1) 第1学年では混合学級とし、国語・数学・理科・社会・英語・専門科目の基礎など、技術者に必要な教養科目を中心に編成している。
- 2) 第2学年から、各分野に配属が決定し、高学年に進むに従い各分野のごとの専門科目が多くなるくさび形に科目を編成している。
- 3) 高学年では、5分野に亘る幅広い知識・技術・応用力等を身につけるため、各分野共通科目である複合融合演習等を編成している。

[スマートメカニクスコース]

情報工学分野と機械工学分野を融合し、それぞれ一つの専門分野を体系的に学び、その後もう一方の専門分野の知識を修得できるようカリキュラムを編成している。

<情報工学分野>

情報工学分野では、スマートメカニクスコースの中で、情報工学に関する知識、技術を総合的に学習し、ネットワークの仕組み、プログラミング技術、データベース技術、人工知能(AI)技術など、情報工学の基礎から応用までの幅広い分野を修得できるようカリキュラムを編成している。

<機械工学分野>

機械工学分野では、スマートメカニクスコースの中で、機械工学に関する知識、技術を総合的に学習し、力学、設計・製図、材料・加工、メカトロニクス、熱・流体、情報処理技術など、幅広い分野を修得できるようカリキュラムを編成している。

[エレクトロニクスコース]

電気工学分野と電子工学分野を融合し、まずは電気・電子分野の共通基礎科目を学び、その後それぞれの専門分野を体系的に修得できるようカリキュラムを編成している。

<電気工学分野>

電気工学分野では、エレクトロニクスコースの中で、電気工学に関する知識、技術を総合的に学習し、電気の基本から始まり、電気エネルギーの作り方や送り方、電気エネルギーを機械エネルギーに変える方法、機械やロボットの仕組みなど、幅広い分野を修得できるようカリキュラムを編成している。

<電子工学分野>

電子工学分野では、エレクトロニクスコースの中で、電子工学に関する知識、技術を総合的に学習し、電磁気学、電気・電子回路、論理回路、光・電子デバイス、通信工学、プログラム言語などの電子工学に関する基礎から応用までの幅広い分野を修得できるようカリキュラムを編成している。

[建築デザインコース] <建築学分野>

建築学分野では、建築学に関する知識、技術を総合的に学習し、建築構造・材料、建築生産、建築環境・設備、建築計画・設計など建築学に関する基礎から応用までの幅広い分野を修得できるようカリキュラムを編成している。

○ アドミッションポリシー

本校では、創造工学科及び各コース・分野ごとに、受け入れたい人材の「アドミッションポリシー」を定めている。

(創造工学科)

工学を学ぶための基礎学力を備えた人で

- ◎ 技術者になりたい人や「ものづくり」に興味のある人……………夢と創造性
- ◎ 向上心をもって学校生活に取り組もうとする人……………意欲と努力
- ◎ 社会の物事に疑問や関心をもち、よい社会を築こうとする人……………意識と改革

- ◎ 約束ごとを守り、まわりの人たちを尊重する人……………敬意と協調
- ◎ 失敗を恐れず、何度でも頑張ってみようとする人……………勇気と挑戦

[スマートメカニクスコース]

情報工学分野と機械工学分野を融合し、様々な機能を実現するために製品に組み込まれるコンピュータシステム技術、高度情報化社会を支えるプログラミング技術、人間と機械間の情報をやり取りしたり、情報の流れを制御したりするためのシステム技術、人間と機械・システム間の橋渡しをするマンマシンインターフェース技術、機械とセンサーやコンピュータ技術を結合させて機械の高度化を図るメカトロニクス技術等を活用することができる、高度な技術者を養成します。本コースでは、それぞれ一つの専門分野を体系的に学び、その後もう一方の専門分野の知識を吸収したい人の入学を期待しています。

<情報工学分野>

情報工学分野は、スマートメカニクスコースの中で、特に大量の情報を効率よく「取得」「加工」「蓄積」「伝達」するなどの情報工学を中心とした技術者になるため、ネットワークの仕組み、プログラミング技術、データベース技術、人工知能（AI）技術など、情報工学の基礎から応用までの幅広い分野を学びます。そのため、私たちは次のような人の入学を期待しています。

- 1) コンピュータの動作原理やプログラミングに興味のある人
- 2) データベースやネットワークなどの IT の応用技術を修得したい人
- 3) 実践的な技術や専門知識を学習し、IT 社会に貢献したい人

<機械工学分野>

機械工学分野は、スマートメカニクスコースの中で、特に「エネルギー」「情報」「機械材料」をつくり出す“ものづくり”などの機械工学を中心とした技術者になるため、力学、設計・製図、材料・加工、メカトロニクス、熱・流体、情報処理技術など、幅広い分野を学びます。そのため、私たちは次のような人の入学を期待しています。

- 1) 機械が好きで、みずから新しい“ものづくり”に挑戦できる人
- 2) 人のために役に立ち、地球に優しい“ものづくり”に関心のある人
- 3) グローバルな視点に立ち、安全な“ものづくり”に貢献したい人

[エレクトロニクスコース]

電気工学分野と電子工学分野を融合し、電気エネルギーや計測制御と光・電子デバイス、電子制御と情報通信技術を学び、人々の安心・安全で豊かな生活を支えるために、社会基盤技術から情報通信技術までの幅広く全ての産業に貢献出来る高度な技術者を養成します。本コースでは、まずは電気・電子分野の共通基礎科目を学び、その後それぞれの専門分野を体系的に学びたい人の入学を期待しています。

<電気工学分野>

電気工学分野は、エレクトロニクスコースの中で、特に人々の暮らしを支える電気エネルギーの「生成」「伝送」「利用」などの電気工学を中心とした技術者になるため、電気の基本から始まり、電気エネルギーの作り方や送り方、電気エネルギーを機械エネルギーに変える方法、機械やロボットの仕組みなど、幅広い分野を学びます。そのため、私たちは次のような人の入学を期待しています。

- 1) 発電、送電、新エネルギーに興味のある人
- 2) 電波、放送、通信、画像処理に興味のある人
- 3) コンピュータ、ロボット、モータに興味のある人

<電子工学分野>

電子工学分野は、エレクトロニクスコースの中で、特に「電子デバイス」「情報通信」「電子制御」などの電子工学を中心とした技術者になるため、電磁気学、電気・電子回路、論理回路、光・電子デバイス、通信工学、プログラム言語などの電子工学に関する基礎から応用までの幅広い分野を学びます。そのため、私たちは次のような人の入学を期待しています。

- 1) ICT（情報通信技術）に興味があり、新しい情報伝達の仕組み（通信）を築きたい人
- 2) 「もの」の仕組みに興味があり、いままでにない物質（半導体）を創りたい人
- 3) コンピュータで「もの」を測り（計測）、自動制御によってロボットを自在に動かしたい人

[建築デザインコース] <建築学分野>

建築学分野は、建築の「意匠と計画」「構造と材料」「環境と設備」に関する技術を学び、「使いやすさ」や「安全性」と共に、「空間の美しさ」を追求できる高度な技術者を養成します。そのため、私たちは次のような人の入学を期待しています。

- 1) 建物の形やつくり方に興味がある人
- 2) 暮らしやすい環境に興味がある人
- 3) デザインすることが好きな人

(2) 【学士課程】(専攻科)

ディプロマポリシー

本校専攻科では、学則に定める所定の単位を修得し、学習目標に定める実践的・創造的技術者としての能力及び各専攻に下記の能力を身につけることを達成した者に対し修了を認定します。

① 建設・生産システム工学専攻

機械工学及び建築学を基礎とする学生に対し、準学士課程で修得した基礎学力、専門的能力をさらに高い水準に上げ、問題解決能力・豊かな発想力をより高めた実践的技術者としての能力を身につけた者。

② 電子情報システム工学専攻

電気工学、電子工学及び情報工学を基礎とする学生に対し、準学士課程の教育で修得した基礎学力を直接活用しながら、高度な専門技術を学ぶことにより、効率よく専門性を高め実践的技術者としての能力を身につけた者。

カリキュラムポリシー

本校専攻科では、専攻科の「ディプロマポリシー」に定める能力を身につけるため、準学士課程のカリキュラムポリシーを引き継ぎ、発展させて、「創造的な技術開発能力、情報の高度処理能力、国際化への対応能力を総合的に兼ね備え、技術者倫理と地域への強い貢献意識をもった高度技術者の育成」を目的としたカリキュラムを編成している。また、各専攻について下記のとおり定めている。

① 建設・生産システム工学専攻

主として、機械工学及び建築学を基礎とする学生に対し、準学士課程で修得した基礎学力、専門的能力をさらに高い水準に上げるため、問題解決能力・豊かな発想力をより高めた実践的技術者を養成することを目的とし、カリキュラムを編成している。

さらに、学科の共通あるいは境界領域の分野に関しては、建築設計と機械設計の両方の視野のもとで対応できる設計・開発技術者や、地域の特色である低温環境における諸問題に対応できる技術者を育成するカリキュラム編成となっています。

② 電子情報システム工学専攻

主として、電気工学、電子工学及び情報工学を基礎とする学生に対し、準学士課程の教育で修得した基礎学力を直接活用しながら、高度な専門技術を学ぶことにより、効率よく専門性を高めることができるようカリキュラム

を編成している。

さらに、互いに関連する境界領域についても学ぶことにより、専門知識に広がりと応用能力を兼ね備えた創造性豊かで高度な研究開発能力を有する高度実践的技術者を養成するカリキュラム編成となっている。

アドミッションポリシー

本校専攻科では、上記の目的を踏まえ、次のような人に入学してほしいと考えています。

- 技術や科学の素養があり、より高度で幅広い技術の修得を目指す人
- 基本的な教養と倫理観を身につけた人
- コミュニケーション能力の向上を目指す人
- 技術的課題に積極的に挑戦する意欲のある人
- 技術を身につけ、地域・社会に貢献する希望のある人

Ⅲ 選択的評価事項の自己評価等

選択的評価事項A 研究活動の状況

<p>評価の視点</p> <p>A-1 高等専門学校の研究活動の目的等に照らして、必要な研究体制及び支援体制が整備され、機能しており、研究活動の目的に沿った成果が得られていること。</p>	
<p>観点A-1-① 研究活動に関する目的、基本方針、目標等が適切に定められているか。</p>	
<p>関係法令</p>	<p>(設)第2条第2項</p>
<p>【留意点】なし。</p>	
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する □満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) 研究活動に関する目的、基本方針、目標等を適切に定めているか。</p> <p>■定めている □定めていない</p>	<p>◇定めていることがわかる資料</p> <p>資料 A-1-①-(1)-1_企画会議資料(H310318)_目標・ポリシー・方針等設置要項</p>
<p>観点A-1-② 研究活動の目的等に照らして、研究体制及び支援体制が適切に整備され、機能しているか。</p>	
<p>【留意点】</p> <p>○ 観点A-1-①の研究活動に関する目的、基本方針、目標等を達成するための、実施体制、設備等を含む研究体制及び支援体制の整備状況・活動状況について分析すること。</p> <p>○ 実施体制の整備については、研究に携わる教員等の配置状況、センター等設置状況を示すこと。</p> <p>○ 研究活動状況については、共同研究等、他研究機関や地域社会との連携体制及びその機能状況等の具体例を示すこと。</p>	
<p>関係法令</p>	<p>(設)第2条</p>
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する □満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) 学校が設定した研究活動の目的等を達成するための実施体制を整備しているか。</p> <p>■整備している □整備していない</p>	<p>◇目的等ごとに、実施体制が整備されていることがわかる資料</p> <p>資料 A-1-②-(1)-1_学校要覧組織図</p>
<p>(2) 学校が設定した研究活動の目的等を達成するための設備等を含む研究体制を整備しているか。</p> <p>■整備している □整備していない</p>	<p>◇目的等ごとに、研究体制が整備されていることがわかる資料</p> <p>資料 A-1-②-(1)-1_学校要覧組織図</p>
<p>(3) 学校が設定した研究活動の目的等を達成するための支援体制を整備しているか。</p> <p>■整備している □整備していない</p>	<p>◇目的等ごとに、支援体制が整備されていることがわかる資料</p> <p>資料 A-1-②-(1)-1_学校要覧組織図</p>
<p>(4) (1)～(3)の体制の下、研究活動が十分に行われているか。</p> <p>■行われている □行われていない</p>	<p>◇研究活動の実施状況がわかる資料</p> <p>資料 A-1-②-(4)-1_研究紀要教員研究業績一覧</p>

<p>観点A-1-③ 研究活動の目的等に沿った成果が得られているか。</p> <p>【留意点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 研究活動の目的等に照らして、どの程度活動の成果があげられているか、目的の達成度について実績等を示すデータ等を提示すること。 ○ 目的が複数ある場合は、それぞれの目的ごとに、目的に照らした研究の成果及び目的の達成度について資料を提示すること。 	
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する</p> <p>□満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p> <p>(1) 学校が設定した研究活動の目的等に照らして、成果が得られているか。</p> <p>■得られている</p> <p>□得られていない</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p> <p>◇目的等ごとに、活動の成果がわかる資料</p> <p>科学研究費一覧 資料 A-1-③-(1)-1_科学研究費一覧</p> <p>、共同研究一覧 資料 A-1-③-(1)-2_共同研究一覧</p> <p>学生の学会発表（国内外） 資料 A-1-③-(1)-3_学生の学会発表</p>
<p>観点A-1-④ 研究活動等の実施状況や問題点を把握し、改善を図っていくための体制が整備され、機能しているか。</p> <p>【留意点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 組織の役割、人的規模・バランス、組織間の連携・意思決定プロセス・責任の明確化等がわかる資料を提示すること。 ○ 具体的な改善事例については、活動状況とともに効果や成果について示すこと。 ○ 研究活動等の実施状況や問題点を把握しているものの、現状では改善を要する状況にない場合には、問題が生じた際に対応できる体制の整備状況について資料を提示すること。 	
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する</p> <p>□満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p> <p>(1) 観点A-1-③で把握した成果を基に問題点等を把握し、それを改善に結び付けるための体制を整備しているか。</p> <p>■整備している</p> <p>□整備していない</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p> <p>◇改善の体制がわかる資料</p> <p>資料 A-1-④-(1)-1_地域共同テクノセンター規則 地域共同テクノセンター運営委員会が改善を実施</p> <p>◆学校が設定した研究活動の目的等の項目に対応させた具体的な改善事例があれば、具体的な内容について、資料を基に記述する。</p> <p>資料 A-1-④-(1)-2_北海道地区高専研究連携協議会 北海道地区高専研究連携協議会を設置し、研究の推進に役立てている。</p> <p>資料 A-1-④-(1)-3_道内4高専合同研究シーズ集 道内4高専で合同研究シーズ集を発行している。</p>
<p>A-1 特記事項 この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性</p>	

や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。
<p>学内研究支援施設として地域共同テクノセンターを、事務組織として研究協力室、教育研究支援センターを設置している。外部では地域企業との連携を活発に行うために、釧路工業高等専門学校地域振興協力会があり、本校の教育研究活動に対して支援をいただいている。また、地元企業と連携している釧路工業技術センターと研究開発に関する情報共有を行い、教育研究活動に役立っている。学内では、研究公募状況を全教職員に知らせている他、教員同士の研究発表会や研究FDを実施しており、論文投稿の支援、研究活動旅費の支援を行っている。北海道地区研究連携協議会を設置し活動を加速させているとともに、北海道科学大学と北海道工業試験場との研究発表会を開催している。</p>

選択的評価事項A 目的の達成状況の判断
<p> <input checked="" type="checkbox"/> 目的の達成状況が非常に優れている <input type="checkbox"/> 目的の達成状況が良好である <input type="checkbox"/> 目的の達成状況がおおむね良好である <input type="checkbox"/> 目的の達成状況が不十分である </p>

選択的評価事項A

優れた点
<p>研究活動に必要な施設設備を備えており、学内での実施体制や支援体制を整えている。地域産業界との連携体制も整えられており、その成果は地域に還元されているとともに、教育活動にも取り入れられている。道内4高専との研究連携を推進するとともに、他大学や研究機関と連携した活動を推進している。</p>
改善を要する点

選択的評価事項B 地域貢献活動等の状況

評価の視点	
B-1 高等専門学校の地域貢献活動等に関する目的等に照らして、地域貢献活動が適切に行われ、活動の成果が認められていること。	
観点B-1-① 地域貢献活動等に関する目的、基本方針、目標等が適切に定められているか。	
関係法令	(法)第107条 (設)第21条
【留意点】	
○ なし。	
観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	
以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。 ■満たしていると判断する □満たしていると判断しない	
自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 地域貢献活動等に関する目的、基本方針、目標等を適切に定めているか。 ■定めている □定めていない	◇定めていることがわかる資料 資料 B-1-①-(1)-1_企画会議資料(H310318)_目標・ポリシー・方針等設置要項
観点B-1-② 地域貢献活動等の目的等に照らして、活動が計画的に実施されているか。	
【留意点】	
○ 実施体制について分析することは必須ではない。	
関係法令	(法)第107条 (設)第21条
観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	
以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。 ■満たしていると判断する □満たしていると判断しない	
自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 学校が設定した地域貢献活動等について、具体的な方針を策定しているか。 ■策定している □策定していない	◇具体的な方針が策定されていることがわかる資料 資料 B-1-①-(1)-1_企画会議資料(H310318)_目標・ポリシー・方針等設置要項
(2) (1)の方針に基づき計画的に実施しているか。 ■実施している □実施していない	◇実施状況がわかる資料 資料 B-1-②-(1)-1_出前授業実施計画 資料 B-1-②-(1)-2_公開講座実施計画 資料 B-1-②-(1)-3_学校開放事業実施計画
観点B-1-③ 地域貢献活動等の実績や活動参加者等の満足度等から判断して、目的に沿った活動の成果が認められるか。	
【留意点】	
○ 目的が複数ある場合は、それぞれの目的ごとに、活動の成果がわかる資料を提示すること。	
観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	
以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。 ■満たしていると判断する □満たしていると判断しない	
自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 学校が設定した地域貢献活動等の目的等に照らして、成果が認められるか。	◇活動の成果がわかる資料（活動別参加者数、参加者・利用者アンケート等）

<input checked="" type="checkbox"/> 認められる <input type="checkbox"/> 認められない	資料 B-1-③-(1)-1_出前授業実施一覧 資料 B-1-③-(1)-2_公開講座実施状況 資料 B-1-③-(1)-3_学校開放授業実施状況
<p>観点B-1-④ 地域貢献活動等に関する問題点を把握し、改善を図っていくための体制が整備され、機能しているか。</p>	
<p>【留意点】</p> <p>○ 具体的な改善事例については、活動状況とともに効果や成果について示すこと。</p> <p>○ 地域貢献活動等に関する問題点を把握しているものの、現状では改善を要する状況にない場合には、問題が生じた際に対応できる体制の整備状況について資料を提示すること。</p>	
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>満たしていると判断する <input type="checkbox"/>満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) 観点B-1-③で把握した成果を基に問題点等を把握し、それを改善に結び付けるための体制を整備しているか。</p> <p><input type="checkbox"/>整備している <input type="checkbox"/>整備していない</p>	<p>◇改善の体制がわかる資料 資料 B-1-④-(1)-1_広報戦略室規則</p> <p>◆学校が設定した地域貢献活動等の目的等の項目に対応させた具体的な改善事例があれば、具体的な内容について、資料を基に記述する。 資料 B-1-④-(1)-2_エンジュニアクラブ募集</p>
<p>B-1 特記事項 この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。</p>	
<p>社会人を対象とした公開講座、小中学校に出向く出前授業を行っている他、地域への出前授業を行っている。小中学生を対象にエンジュニアクラブを発足させて年間を通じた活動を行っており、各専門分野が実施するチャレンジ・ジュニアラボは毎回好評を得ている。他機関との連携では、釧路少年少女発明クラブや畜大ふれあいフェスティバルでの活動を行っており、メイド in くしろをはじめ様々なイベントへも参加し、活動を行っている。</p>	

<p>選択的評価事項B 目的の達成状況の判断</p>
<p><input type="checkbox"/>目的の達成状況が非常に優れている <input checked="" type="checkbox"/>目的の達成状況が良好である <input type="checkbox"/>目的の達成状況がおおむね良好である <input type="checkbox"/>目的の達成状況が不十分である</p>
<p>選択的評価事項B</p>
<p>優れた点</p>
<p>出前授業を計画的に実施しており、好評を得ている。社会人対象の公開講座では、一般市民向けのみならず、企業技術者対象の講座を実施している。図書館の一般開放やエンジュニアクラブ、チャレンジ・ジュニアラボなどの学校開放行事を積極的に行っている。他機関と連携し、広範囲にわたって様々な活動を実施している。</p>
<p>改善を要する点</p>

--